

地域医療連携だより

患者サポートセンターの 「With コロナ」の取り組み

当センターは「地域医療支援病院」の窓口として、地域とのつながりを深める様々な活動を行っております。

コロナ禍では、講演会や研修会は対面形式が困難でしたが、これまでは Web 活用で何とか予定通り実施することができました。夏場に猛威を振るった感染もようやく秋口から消退傾向にあります。今後は2価ワクチン接種も推進されることから、当センターは、地域の皆様に対面で参加していただけるよう種々の企画を進めているところです。

ご案内のように、今春からはセンター専任職員が増員されました。社会福祉士ならびに看護師に新たな顔ぶれが加わり、紹介患者さんの検査受け入れ、緊急受診、入院相談が充実され、よりスムーズになりました。また、細心の注意を払いながら、スタッフによる医院や病院への訪問も再開することになりました。

当センターは地域の皆様の声を伺いながら、「外来→入院→退院→在宅療養」の流れをシームレスで支援できるよう、さらに一層努力してまいります。

副センター長 大島恭子



理念

- ・思いやりの心
- ・地域社会の信頼
- ・職員相互の信頼

基本方針

- ・ブリッジ・ザ・ギャップス
- ・患者さんの権利尊重
- ・信頼の医療に向けて
- ・地球にやさしい環境づくり

環境方針

- ・省資源・省エネルギーの推進
- ・廃棄物の3R
(減らす、再使用、再資源化)の推進
- ・安全性・快適性の推進
- ・環境広報活動の推進

患者サポートセンター 社会福祉士・相談員のご紹介



社会福祉士・相談員は、今年度、独居高齢者の在宅復帰・施設入所を阻む社会的問題が早期に解決することに着目しています。患者さん、一人ひとりの生き方をとらえることにより、**円滑な退院支援、転院調整**に取り組んでいます。

担当診療科

心臓血管外科・不整脈科・循環器内科・整形外科・外科・消化器内科等を担当しています。



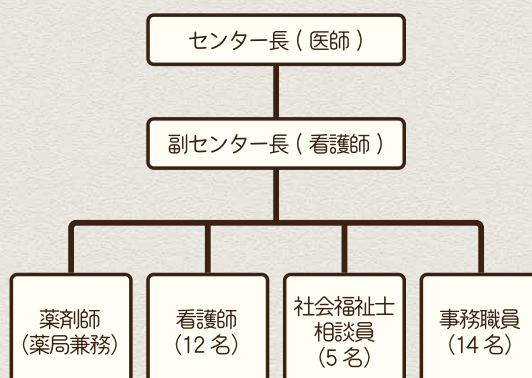
佐須 雅司

社会福祉士 係長

自己PR

医療現場の中にいる社会福祉の人間として「とりあえず相談してみよか」と相談いただき**オールラウンドに援助対応**に関われるように患者さん、ご家族、院内外の多職種とかかわっています。病棟の退院支援だけでなく、**外来相談や救急部からの転送依頼や精神科領域の相談対応**を得意としています。

患者サポートセンター構成図 総勢 33 名（薬剤師を除く）



担当診療科

主に整形外科・消化器内科を担当しています。

プライベートな時間の使い方

現在、子育て奮闘中。
趣味は空いた時間に読書・音楽鑑賞・日本史関係等



早川 義昭

社会福祉士

自己PR

私は高齢者介護福祉分野で、2000年以前から、今に至るまで携わってきました。現在は地域や家族のつながりが薄れ、一人で困っている日がたくさんいます。

今まで学んだことを活かし、MSWとして少しでも**地域のみなさんとともに患者さんの伴走者**になれるよう頑張っていきたいと思います。

担当診療科

脳神経外科・内科を担当しています。

プライベートな時間の使い方

おすすめされた動画や配信をみたり、コロナ渦で回数は減りましたが、友人とお話することで、気分転換をしています。



中阪 奈津希

社会福祉士

自己PR

前職では、相談員として主に高齢者相手の福祉中心の仕事を経験していました。

社会福祉士として困りごとや不安を少しでも軽減し、退院・転院をしていただけるよう、先輩方に教わりながら、院内外の連携に尽力しています。

自分の性格をひとことで表すと「**責任感**」です。

忙しい中でも仕事をしっかりとやり遂げるよう動いています。

■ 担当診療科

5A 病棟で主に整形外科を担当しています。

■ プライベートな時間の使い方

日々の業務で凝り固まった体を改善したく、筋トレ&効率のよいプロテイン摂取による体力づくりを計画しています。



林田 千尋

相談員

■ 自己 PR

高齢化が進み、生活背景が老々介護や独居の患者さんが増えている。**居宅介護系の前職での経験を活かして**患者さんに安心して在宅療養できるよう支援しています。

また他職種と連携し、スムーズな転院調整ができるように、確かな情報収集と迅速に**日々奮闘**しております。

■ 担当診療科

脳神経外科を中心に担当しています。

■ プライベートな時間の使い方

休みの日はおでかけしたり、テレビを見たり寝たり…して過ごしています。



徳山 奏莉

相談員

■ 自己 PR

主に他院への転院調整を主に担当させていただいており転院先へ**患者さんの情報を詳細に伝えられるよう**工夫しています。

患者さん・ご家族との面談の時間を大切にゆっくりとお話しを伺うよう心がけています。

より安全で確実なアブレーション治療のため 血管撮影装置を更新しました

当院の不整脈治療センターでは心臓カテーテルアブレーション治療（経皮的心筋焼灼術）を年間約300件行っております。これは、主に足の付け根からカテーテルを血管内に挿入し、X線で透視しながら心臓に進め治療を行うものです。

この治療に欠かせない心臓アンギオシステムをこのたび更新し、「Alphenix Biplane」を導入しました。従来機と比較し、画像解像度が飛躍的に向上。多彩なコンピューター処理が施された造影画像は視認しやすく、カテーテル治療を大きくサポートします。

透視（カテーテルやバルーン確認用の低放射線照射）、撮影（画像記録用の最適放射線照射）



ともに、最適な放射線量を選択しつつ被ばくが極力抑えられるのも大きな特徴で、被ばく線量をリアルタイムに可視化するシステムも導入しています。

今後も安全・安心な医療提供体制の向上に努めてまいります。

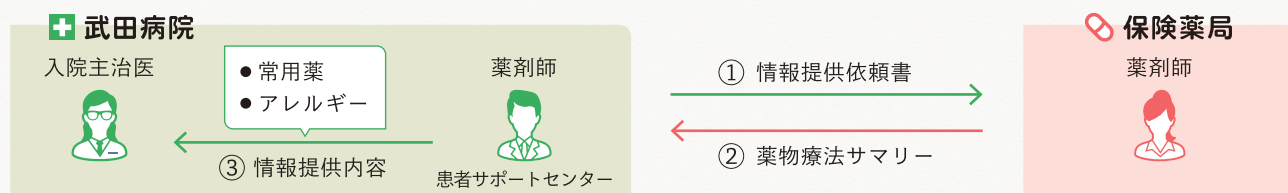
◀ Canon 社製「Alphenix Biplane」。多方向からカテーテルの位置を確認できるバイプレーンシステムで治療の確実性・安全性向上が期待できます。

～薬剤師が推進する入退院時薬薬連携～

病院、保険薬局がそれぞれ管理している患者情報（薬歴、副作用歴、アレルギー歴等）を情報共有することで、薬物療法が安全に行なわれるよう入退院時薬薬連携を行っています。

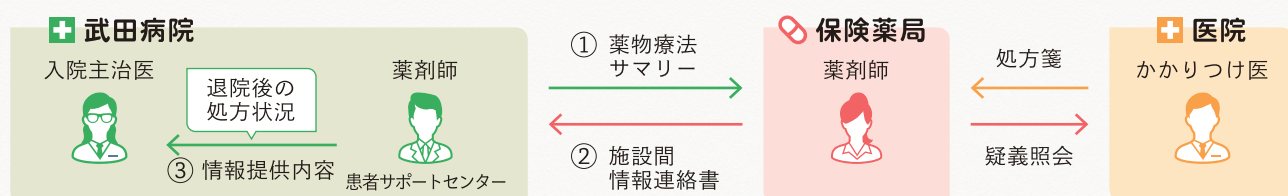
入院前からの取り組み —— 入院前薬物療法連携の流れ

患者サポートセンターで入院前に常用薬の確認を行い、常用薬が不明な場合はかかりつけ薬局に情報提供を依頼しています。また、術前休薬の有無についても確認し、休薬指示が無い場合は、担当医師へ疑義照会を行っています。



退院後の取り組み —— 退院後薬物療法連携の流れ

入院中使用薬剤の内容が変化することがありますので、退院時、かかりつけ薬局に薬剤の追加・変更を記載した「薬物療法サマリー」にて情報提供を行っています。その後の経過は「施設間情報連絡書」を当院の薬局まで送っていただき、必要時には当院主治医に情報共有を行います。



まとめ

取り組み以前には、退院後に中止薬が再開されていたり、追加薬が継続されていない事例が見受けられました。こうしたことのないよう、入院前から入院中、退院後まで継続して安全・安心な薬物療法が行われるよう、かかりつけ薬局との連携・情報共有をはじめとする多職種連携を促進してまいります。

康生会武田病院薬局 木村麻紀

受付時間

月曜日～金曜日 8:30～19:00 土曜日 8:30～17:00

※日曜日・祝日・祭日・年末年始はお休みさせていただきます。

医療機関専用

TEL (075) 361-1352 (直通)

FAX (075) 361-1337 (専用)

※患者サポートセンター受付時間外につきましては医事部（医療事務）にて対応させていただきます

TEL (075) 361-1351 (代表) FAX (075) 361-1268 (医事部専用)



武田病院



患者サポートセンター

患者
サポート
センター